

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	子どもの病を見る	講師	氏名	①酒井道生	開講年次	1年次 後期	単位・時間 1単位 30時間
			所属	①病院			
			実務経験	①医師			
科目のねらい	小児科は臓器別診療ではなく、総合診療である。また、小児は大きさが小さいだけでなく、解剖生理学的にも精神的にも成人とは異なった特性がある。ヒトの臓器の発育・発達は臓器ごとに大きく異なる。看護の大半は成人疾患を理解することにあるが、そこで習ったことをそのまま小児に当てはめることはできない。小児期に発症した疾患が成人期に至るまでどのような経過や過程たどののかを学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 小児の臓器の発育・発達の特徴を述べることができる。 2. 代表的な小児疾患の好発年齢や病態、症状の重要なポイントと検査、治療を行う目的を説明できる。						
思考・判断・表現	1. 小児期に発症した疾患が成人期に至るまでの過程を考察できる。 2. 小児疾患が子どもとその家族に与える影響を発言できる。						
主体的学習態度	1. 事前に小児疾患で学習する内容に類似した成人疾患を予習しながら比較して学習ができる。 2. 小児疾患の看護師国家試験問題を解き定期試験に臨むことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護（メディカ出版）						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論（医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	小児ウイルス感染症	○			酒井道生	小さな生物 呼吸・循環・血液を見る	「小さな生物」で学んだ感染症を踏まえ、小児感染症の看護を学習する。
2	小児細菌感染症	○					
3	小児呼吸器疾患、小児気管支喘息	○				体の調節と神経の病を見る	小児はアレルギーマーチをおこしやすい。好発年齢を踏まえてアレルギー看護を学習する。 成人糖尿病との看護の違いを学ぶ。
4	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎	○					
5	1型・2型糖尿病、低身長症	○					
6	脳性麻痺、二分脊椎、水頭症	○				消化・排泄の病を見る	医療ケア児の原因疾患であることが多いため、日常生活への影響を理解する。
7	てんかん、筋ジストロフィ	○					
8	消化器疾患	○				呼吸・循環・血液を見る	小児特有の消化器疾患は胎児期から発生している新生児より手術が必要なことが多い。手術適応時期を理解する。
9	(外科疾患含む)	○					
10	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎 尿路感染症、IgA腎症	○				運動・体を守ることの病を見る	ネフローゼ症候群と急性糸球体腎炎の乏尿期における看護の違いを理解する。
11	白血病、神経芽腫、血友病、紫斑病	○					
12	心室中隔欠損症、ファロー四徴症 動脈管開存症、心房中隔欠損症	○					
13	川崎病、若年性特発性関節炎 若年性皮膚筋炎	○				小児自己免疫疾患の治療とその後の経過を理解し看護につなげる。	
14	上腕頰上骨折、先天性股関節脱臼 ペルテス病、先天性内反足	○					
15	小児疾患をもつ子どもの看護	○				小児運動器疾患の特徴と、その後の後遺症を看護へつなげる。	
							全ての小児疾患を看護に結び付け考えることが重要である。